



みんなの力で大江戸線を清瀬市へ

No.1452 毎月1日・15日発行

令和8年 (2026年) 3月15日号

市ホームページ
はこちら↓



清瀬のイマを深掘り!!

more!
KIYOSE

City Promotion
Magazine



←過去の
バックナンバー
はこちら

毎奇数月15日発行の「more! KIYOSE」全戸配布中!

発行：清瀬市 編集：経営政策部シティプロモーション課 〒204-8511 清瀬市中里五丁目842番地 ☎ 042-492-5111 (代表) ☎ 042-492-2415 〓 kouhou@city.kiyose.lg.jp

令和8年

所信表明

(要旨)

澁谷市長が、2月18日に開会した令和8年市議会第1回定例会で、来年度の基本的な市政の運営方針や主要事業についての考え方を表明しましたので、その要旨をお知らせします。なお、所信表明の全文は市ホームページに掲載しています。



全文はこちら



「子どもも大人も学びあい育ちあう」きよせ

子どもの育ちと学びが地域全体で支えられ、市民誰もが生涯にわたって学びの機会を得られる環境を整備することで、すべての世代が心豊かに生活できるまちを目指します。

乳児等通園支援事業では、保護者の就労要件に関係なく、保育園等に



通っていない生後6か月から満3歳未満のお子さまが月10時間まで保育施設を利用できる制度を開始し、多様な子育て家庭への支援を強化します。

また、家事育児サポーター派遣事業を導入し、妊娠期から産後間もない時期の子育て家庭の孤立化や産後うつを 방지、育児や家事の訪問支援を実施します。基本料金は1時間あたり800円で、市・都民税非課税世帯や生活保護受給世帯等では減額制度を設けます。

令和11年度開校予定の新しい清瀬小学校では、児童や教職員の意見を反映しながら、品質とコスト管理を意識した設計作業を進める予定です。

さらに、市内中学校の全普通教室に電子黒板を導入し、教育環境の充実を図ります。

そのほか、児童センターのLED化や郷土博物館のエレベーター改修にも着手し、子どもの成長を支える社会を築き、一人ひとりの学びと学び合いの充実を図ります。

ともに未来をひらき 笑顔とみどりがあふれるまち 清瀬

「思いやりに包まれ健やかに暮らす」きよせ

すべての市民が、必要な支援や医療を受けて健やかで心豊かに暮らせるよう、地域や関係機関と連携し、思いやりに包まれたまちを目指します。

高齢者補聴器購入助成では、65歳以上の住民税非課税者を対象に、補聴器購入費の半額を助成します(上限額3万円)。

また、医療的ケア児保育支援事業を開始し、医療的ケアが必要な子どもを保育所等で受け入れるための支援として、保育所への経費補助の支援を実施します。

さらに、産婦健診・1か月健診への公費負担制度を新たに導入し、都内であればどこでも利用可能な体制を整備します。

そのほか、第5次地域福祉計画の検討開始や、小・中学校就学援助事業の拡充、RSウイルス母子免疫ワクチンの定期予防接種化やがん検診の受診率向上の取り組みを行うなど、健やかな暮らしの環境づくりを進めます。

「安全・安心・快適に暮らせる」きよせ

豊かな緑や農地を次世代に引き継ぎながら、都市基盤や居住環境の充実、防災・防犯体制の強化に取り組み、誰もが「安全・安心・快適」と感じるまちを目指します。

都市計画道路東村山3・4・15の2号線の地区計画を策定するとともに、本市で施工する都市計画道路東村山3・4・16号線、東村山3・4・17号線、東村山3・4・26号線の整備も進めます。

また、中里一丁目緑地用地や神山特別緑地保全地区用地を取得し、貴重な自然環境を次世代に引き継ぎます。

さらに、空き家の実態調査やゼロカーボンシティに向けたEVトラックの購入、国土強靱化地域計画の改訂による防災力の強化、柳瀬川右岸第8-1排水区雨水枝線整備を進め、道路冠水の低減を図るなど、安全・安心な暮らしの実現を目指します。

「活気があふれる」きよせ

市と関係機関が連携し、市内産業の活性化及びまちの魅力の発信に取り組み、行政基盤を強化し、にぎわいと活気あふれるまちを目指します。清瀬産農畜産物のブラ

ンド化や流通拡大、西武鉄道沿線自治体との地域活性化プロジェクトを通じ、地域産業の振興を図ります。

また、ふるさと納税返礼品の拡充や中央公園のリニューアルを通じ、市のブランド価値を向上し、まちの魅力創造と発信に取り組みます。

さらに、人材育成基本方針に基づくデジタル人材の育成やAI音声認識システムなどの導入により、職員が力を発揮できる組織づくりを目指します。

公共施設再編計画の改訂に着手し、第十小学校・第四中学校の外壁等改修工事や、第八小学校・第二中学校の空調改修工事など、公共施設の管理適正化と有効活用を進めます。

令和8年度予算案の概要

令和8年度の予算案は、一般会計予算額が384億7,200万円となり、前年度より9億300万円(2.3%)減少しましたが、当初予算として過去2番目に大きな規模です。

また、下水道事業会計を除く特別会計の総額は188億1,800万円となっています。

令和8年度予算は、基本方針に第5次長期総合計画に掲げる施策の実現、持続可能な行財政運営を目指した歳入歳出改革、選ばれるまちを目指した取り組み、子どもに笑顔があふれ、子どもを産み育てたいと思うまちの実現、SDGs未来都市としてのゼロカーボンシティの実現、さらに自治体DXの促進を掲げ、予算編成に取り組みました。

先に申し上げた長期総合計画の4つの将来像に沿った各種施策や、障害者自立支援給付事業などの多額の予算が必要な事業も含まれている一方、市税収入は増加傾向にあるものの、国や東京都の補助金、市債などの依存財源に頼る状況は依然として続いており、財政調整基金の繰り入れも高水準を要する厳しい財政状況です。例年以上に厳しい予算編成の中で、市民の皆さまのご要望に応えるため、積極的に行政課題へ対応をする予算案になっています。

行政報告

南部児童館等複合施設「まつばっくる」と中央公園の一部が2月1日に開館・開園しました。これら

の施設が地域の皆さまの活動の場やコミュニティの拠点となり、地域活性化に寄与することを期待しています。10月には中央公園の第Ⅱ期工事が完了し、全面オープンする予定で、公園トイレやテニスコート、多目的広場が整備されます。

また、中央公園内に設置した豪華客車「夢空間」の魅力伝えるため、ママ鉄・鉄道文化人である豊岡真澄さんに清瀬市公式夢空間アンバサダーに就任いただきました。豊岡さんの発信力と明るいイメージを活かし、市の新たなランドマークとなる「夢空間」と市の魅力を全国の皆さまに届け、地域活性化に寄与することを期待しています。

清瀬市観光協会は、令和7年12月に公式オンラインショップ「きよせ市場」を開設しました。きよせ市場では、観光協会のオリジナル地域産品や市の農工商業の商品を取り扱っており、清瀬市オリジナルデザインの「きよせ箱」に清瀬市ならではの魅力ある商品を詰め合わせた「きよセット」も販売されています。

3月1日には、アミューホールで国際女性デー記念講演会を開催し、長年ジェンダー・ギャップ指数1位のアイスランド駐日大使フレイン・パウルソン氏にジェンダー平等の取り組みについてお話しいたしました。

竹丘多世代交流施設では、4月のオープンを目指して建設を進めており、1階にシニアクラブの活動スペース、2階に会議室とキッチンを設けることで地域コミュニティの活性化と多世代交流を促進します。

市の学校給食では、食育の一環として「きよせ給食」の日を1月に設け、清瀬市役所産はちみつ「きよはち」をはじめ、オリジナルの「ニンニパン®」を提供するなど、子どもたちの食への関心を高め、地域理解や郷土愛を深める取り組みを実施しました。

児童生徒国内派遣事業では、市内中学生2人が令和7年10月に長崎県を訪問しました。外国貿易の歴史や平和学習をテーマに、出島和蘭商館跡や長崎原爆資料館などを視察しました。テーマや移動手段も生徒自身が計画し、主体性を育む取り組みとなりました。

